

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

英語 越谷市立大相模中学校

実施日 指導案検討 令和7年8月22日(金)
授業研究会 令和7年9月25日(木)
訪問者 指導主事 安達 一樹

指導案検討会【中2】

● 単元名

Lesson 4 – Part3 Side Story
準備を終えなければなりません

● 本時の目標

- have to / don't have to を使って、学校生活のルールを自分たちで考え、自分の意見を伝え合うことができる。
《思考力、判断力、表現力等》
- have to / don't have to を使って、学校生活のルールを自分たちで考え、自分の意見を伝え合おうとしている。
《学びに向かう力、人間性等》

《授業者の思い・意図》

- ❖ 「使える英語」を身に付けさせたい。
➡ 学校生活のルールなど、生徒にとって、身近な場面や状況につなげていくことで、実際に「使える英語」を学習する。

授業デザイン改善のPOINT

言語活動を「学校生活のルールを自分たちで考え伝え合う」と設定し、生徒の実生活へつながる、本物の題材となるよう工夫する。

■ 「必然性」や「相手意識」に着目

生徒が本題材を自分事として捉え、本言語活動の目的を意識しながら取り組む。

■ 「個別最適な学び」の充実

言語活動において、生徒が使うであろう表現等をあらかじめIdea Boxとして用意し、生徒が必要に応じて活用できるようにする。

■ 参会者の声

・とても実践的な指導案検討会でした。今まで疑問だったことが解決でき、自分の指導について「これでよかった」と確認できました。単元のゴールを生徒と共有し、そこに向かって授業づくりができるよう今後授業計画をしっかり立てて行きたいと思いました。
(指導案検討会:中学校教諭)

・授業の流れが、個別→協働でとまっていた部分が多くあるので、個別→協働→個別の活動をしっかりとやっていきたいと思います。また、単元や本時の目的やゴールを明確にして授業作りをしたいと思います。
(授業研究会:小学校教諭)

■ 授業者の声

・私の授業を見に来ていただいたことに非常に感謝している。
また、英語の授業について、自分自身で考えたり、校内の英語科の先生方と考えたりする以上に、多くの意見をいただいたことで、自分が見落としていた角度から授業を作ることができた。まだまだ自分の授業を研究する余地があったと反省している。

授業研究会

● 生徒の変容と今後の課題

- 生徒は、学級生活の実態を踏まえて、「〇〇なクラスにしたい」や「〇〇を大切にしたい」など、自分事としてルールを考えている姿勢が見えた。
- 生徒は、自分の考えや気持ちを英語で伝えるために、Idea Box や既習のプリント等を使って、表現していた。
- 生徒はよく考え、活動に一生懸命に取り組んでいた。生徒が英語を使って表現できる時間をもっと確保したい。

【生徒の考え】

We have to be quiet before school lunch.
We have to say big "chayogozaimasu".
We have to wash at time.

